

かがやき

令和6年 1月 15日(月)
多摩市立連光寺小学校
特別支援教室 かがやき学級
学級通信 NO. 13

答えの出ない事態に耐える力「ネガティブ・ケイパビリティ」

2024年、令和6年となりました。本年もよろしくお祈りします。新年となりましたが世の中は紛争や自然災害のニュースが絶えず、なんだか心もざわざわしてしまう年の始まりです。そんな中、ある新聞記事で「ネガティブ・ケイパビリティ」という言葉に出会いました。「解なき今を照らすために・答えを急がない力」の記事の中で作家・精神科医でもある帚木蓬生（ははきぎ・ほうせい）先生が紹介された言葉でした。帚木先生は記事の中でこの言葉の意味を「答えの出ない事態に耐える力・答えがでなくても問題に挑み続ける力」とし、まず「問題解決」をしていくことに強い力点を置く傾向の現代社会が、決めつけや社会事象、他者意見についての浅い理解、不寛容につながっていることに対して警鐘を鳴らす内容となっていました。

記事にもあるように周囲を見渡せば、私達をとりまく社会生活の中にはすぐに答えが出ないことに多く囲まれていることに改めて気が付かされます。そして同時にこの視点は「人（子供）の成長・教育」にもそのまま当てはまることであると記事を読んで強く感じた次第です。「すぐに答えがでない」このことは自分自身の成長への理解であったり、他者への理解であったりもします。様々なことが日々多くのニュースとなった2024年の始まり。社会の中に、生活の中にいろいろなことが起こります。「解なき今を照らすために・答えを急がない力」も大切にしつつ進んでいきたいと思いました。

後期、後半の始まり・変化の季節へ

後期、後半の始まりです。3月の修業式までは約50日少となりました。この期間は学校では新学期に向けての0学期とされる時期でもあります。進級や進学に向けての準備という意味合いですね。次の学年に向けてどんな準備をしていくか、そんなことも大切になってきます。また同時に、子供たちにとっては自分がどれくらい成長してきたのかを実感できるタイミングでもあると思います。先日、低学年の小集団指導では「テーマトーク」という、お題を設定してお互いの話を順番に最後まで聞くという時間がありましたが、6人全員が自席から離れることなく友達の話聞くことができていました。そしてこのことを子供たちに伝えると「そういえば、そうだ!」という話になりました。全力で日々生活をしている子供の視点では気がつかないこともありますが、「できてきた」「できた」という発見は自分達の自信にもつながることもあります。

3月以降は進級や環境の変化の季節です。こうした「自信」を一緒にもっていけるようにしていきたいと思います。

お知らせ

・個人面談の希望調査票のご提出をお願いします

先日、かがやき後期個人面談のお知らせを配布しました。フォーム、もしくは配布した用紙の必要事項をお書きの上、ご返送ください。

※後期に面談済のご家庭には配布していません。

※フォームにて送信していただいた場合、用紙の返送は必要ありません。

ご協力をよろしくお願いいたします。

・個別指導計画を1月下旬に配布します

1月下旬に第3期個別指導計画を配布します。ご確認いただき、変更がある場合のみ赤で訂正し、ご返送ください。作成したものでよろしければ、そのままご家庭で保存してください。